

村内外へ、地域の魅力を発信する

天山文庫 志賀 風夏さん

住んでいる人へ、地元の価値を伝える

■現在の活動

「天山文庫※」の管理人をしています。来館者への説明に加え、川内村の名誉村民でもある草野心平と村人のエピソードを話すなど、楽しんでいただける工夫をしています。

また、川内村で新しく始まったプロジェクトで事務局を担当しています。このプロジェクトでは交流を通じて、地域の魅力（震災前からの遊び、暦や歴史・文化）を、子どもたちに伝えていく予定です。

外から来た人だけでなく川内村に住んでいる人へも、地域の魅力や価値を改めて伝えたいと思い活動しています。



資料館を案内いただく志賀さん
マニュアルではない工夫が伝わります

改めて地元を好きになる

■これまでの経緯

震災が起きた時は高校1年生で、相馬の祖母宅から相馬高校に通っていました。学校も混乱し、祖母から「私は足手まといになるから一人で逃げなさい」と言われ、非常事態だという実感がわきました。家のライフラインは無事で、学校へ水やご飯を持っていくお手伝いをした後、関東に避難しました。川内村の実家には一時バリケードがあり帰ることができませんでした。

関東での避難中は、周りは普通の日常を過ごしていることや、「避難をしているから」と特別扱いされることから、居心地がよくありませんでした。また、原発が近くにある地域とそうでない地域では原発への認識に大きな違いがあることを感じ、それも非常に違和感がありました。そのまま関東の学校へ転校することも勧められましたが、学校が再開されると相馬へ戻り学校生活を送りました。

地元が好きという思いもあり、避難指示解除後は定期的に川内村に帰っていました。実家も落ち着き2017年初めに村内に戻って住み始め、改めて地域や施設と向き合うことが増えました。おかげで今までより地域の良さを知ることができていると思います。



※天山文庫
詩人草野心平から寄贈された蔵書を
収蔵する1966年創立の文化施設。

情報は以下をクリックください。
[公式サイト](#) [Facebook](#) [twitter](#)

地域の魅力を再認識するチャンス！

■活動を通じて思うこと

復興や地域振興のためには、今後も地域に住み続ける人の意見が、非常に重要だと思います。外部からいろんなアイデアをいただきますが、実現し継続させるには、住民の協力が欠かせません。将来も長く地域に居る立場として意見を発信し、また地域内の関係性を大事にしていこうと思っています。

また、復興支援に多くの人々が来ていることは、地域の魅力を再確認する大きなチャンスだと思います。私の「天山文庫を良くしたい」という声にも、まず外部から来ている人が賛同してくださったおかげで、村の方も動いてくれるようになりました。

少しずつ変化を起こすと、ご高齢の方が「生前の草野さん本人と面識あるよ」と昔の話をしてくださることもあります。この地域の魅力を、地元の人にも、もっと知ってほしい。そして子どもたちにも伝えていきたいと思っています。



天山文庫内の部屋でお話いただく志賀さん。
この場所は落ち着く、とよく聞くそう。

田舎に住む若者のお手本

■今後の活動

震災後子どもたちが引きこもりがちと聞くこともあります。村の人が、天山文庫の詩や文学を「堅苦しい」と思わず、若者が気軽に来て落ち着ける空間にしたいです。（もともとの天山文庫はそういった、気軽に来れる場所でした。）

■メッセージ

川内村では、自分がやりたいと言えばいろんな人が助けてくれますし、なんだってできる場所です。私自身もやりたいことをやりながら田舎に住む若者のお手本として、発信していきたいと思っています。田舎は好きでもこれからどう暮らすか迷っている人は、ぜひ一度川内に来てみてください。

（復興庁へのメッセージ）

川内に帰りたい若者世代の友達は結構いるので、もっと住環境を整えたいと思います。また、企業や組織ではなく町に長く住むと決めた人が、自発的に町に関わることができる支援が今後必要だと思います。住民だからこそできることを、応援してほしいです。



川内村内で陶芸家見習いでもある志賀さんの作品。
田舎はモノづくりに適しているとお話頂きました。